

# KNC NETWORK NEWS

2016年4月16日 発行

**気になる記事:** インフラにゼロ金利融資、政府・与党—政投銀など通じ最大3兆円—  
政府・与党はインフラの整備に使う資金をほぼゼロ金利で民間企業に融資する仕組みを検討する。新幹線の建設といった大規模な事業を進めやすくし、もたつく景気を下支えする。  
個人消費の喚起策などとともに5月末にまとめる経済対策の柱にし、今秋から実施する。

 (有)北野財經システム  
北野会計事務所  
大阪市淀川区西中島7-1-26  
オリエンタル新大阪ビル707号  
TEL: 06-6304-7857・FAX: 06-6304-8851  
<http://www.kngroup.jp>

**経営一言:** 自分を横に置いて、他人に尽くすという「利他の心」で生きていく転換がいまこそ必要だと思う。

(京セラ名誉会長・稲盛 和夫氏)

— 所長コメント: 相手の心をつかむには、相手の心の中に入り込むことです。自分と相手が一体となると相手が自分となり、自分が相手となる。そうすると損も得もなくなってくる—

## 社内パソコン新調、最大300万円を損益計上 (中小企業だけの償却特例)《税務》

職場のパソコンを新調することを考えているなら、「少額減価償却資産の損金算入の特例」をぜひ使いたいものです。中小企業を対象に、1点の取得価額が30万円未満のコンピューターや器具備品を購入したとき、年間で合計300万円までをその年度に即時償却できるというものです。

一度に最大300万円の損金を計上することができるので、利益が出すぎてしまった年に利用するとより効果的な節税になるでしょう。

なお、平成28年度税制改正で従業員1000人を超える企業は同特例を使えなくなっています。

## リースの会計処理 《税務》

リースは大まかに分けて2種類あります。リース会社が所有している資産をユーザーに貸し出す、いわゆるレンタル取り引きであるオペレーティング・リース」と、ユーザーが指定した物品をリース会社が購入して貸し出す「ファイナンス・リース」です。法人税法上で「リース取引」として扱うのは、ファイナンス・リースです。リース取引にするためには、賃貸借契約の途中で契約を解除できないことと、借り手がリース資産による経済的利益を享受できて、その費用を実質的に負担するべきものであることといったふたつの要件を満たす必要があります。ファイナンス・リースは取引は税法上、貸し手から借り手に資産の引き渡しがあったときに、原則はリース資産の売買があったものとして処理します。

## 雇用保険料率が引下げに 《社会保険》

3月29日に「雇用保険法等の一部を改正する法律案」が国会で成立し、平成28年度(4月1日から29年3月31日)の雇用保険料率が変更となりました。

新しい雇用保険料率は、一般事業で労働者負担4/1000(1/1000)引下げ、事業主負担7/1000(1.5/1000引下げ)となりました。事業主負担のうち、失業等給付の保険料率は4/1000、雇用保険に事業の保険料率は3/1000です。また、農林水産・清酒製造の事業では労働者負担5/1000(1/1000引下げ)、事業主負担8/1000(1.5/1000引下げ)、建設の事業では、労働者負担5/1000(1/1000引下げ)、事業主負担9/1000(1.5/1000引下げ)となりました。今回の引下げは、雇用情勢の改善に伴う失業率の低下と雇用保険料の積立金が6兆円に達していることなどが主な理由です。1.5/1000は保険料率の引下げ効果を考えると、年収300万円の従業員が100人在籍している企業にとって、年間45万円の経費削減となります。そのほか、介護休業取得を後押しするために介護休業取得回数を現行の原則1回から最大3回に増加、介護休業給付金についても40%から67%へ引き上げる措置なども盛り込まれています。

## 後継者が師を持つ大切さ 《経営》

「師」とは、人が生きていく上で何らかの拠り所にする人物です。人物と言っても今現在生存する人に限らず、歴史上の人であったり、書物を通して知る人物であったりしても構いません。ここでは事業後継者が持つべき師について考えてみます。

経営者や管理者は、師と言える人を、一般には会社の各種顧問や先輩・学校時代の恩師・取引先や業界のリーダーや先輩等の中に見出します。また、師の条件として重要な事は、気が合って心から敬服できることです。この条件が合えば、素直な態度で接することが出来て、利害に捉われず長続きします。以上は事業後継者にも当てはまります。一般に、事業承継計画は出資金や地位の継承が中心になりますが、実は後継者の人づくりを早くから進めることが一番の決め手です。例えば、20代・30代は広く実務を習得し、40代くらいまでに一生つき合う師(人物)や書物(信条等を学ぶ)を見出してもらいたいものです。後継者が師に期待することは、仕事上の悩みや迷いを相談したり(人は信頼する人に話すことで決断出来る)、時には叱責や励ましをもらったりするためです。人の上に立つ者は、何事にも独り善がりの判断をしないことが大切であり、師を持つことでリーダーとしてのバランスを養うことが出来ます。